令和６年度　学校報　　校訓「英志つらぬけ」　教育目標「和して、問い、答え、考え、創造しよう　ゆめはばたかせ」

東　明

令和６年11月１日発行
男鹿市立男鹿東中学校
校長　鳥井　雅則
第７号

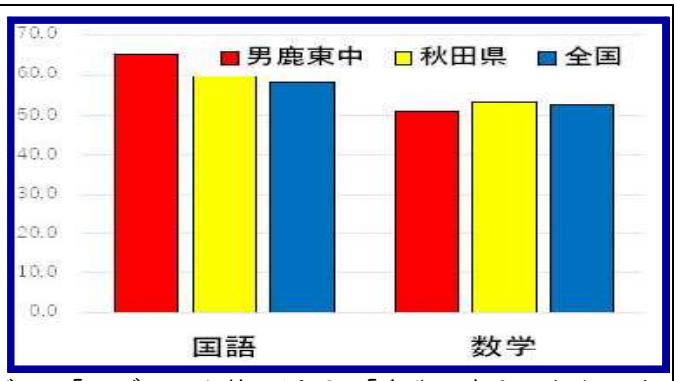
10/12　秋田活性化中学生選手権

２年生有志５名が出場！秋田の未来へ本気でプレゼン！

10月12日、県JAビルを会場に、秋田活性化中学生選手権県央大会が開催されました。本校を含む８校が、それぞれの地元企業や団体を訪問し、インタビューや体験を通して、自分たちなりに考えた提言を発表し、地域活性化に向けて未来へのプレゼンをしました。本校は、２年生有志５名の石田煌星さん、大堤翔さん、安田悠馬さん、山方歩胡さん、伊藤遥音さんのメンバーです。夏休みの間に、職場体験学習やキャリア教育の一環で、地元企業のスーパーセンターアマノさんを訪問し、その事業について学習し、体験し、中学生の視点から地域を活性化するプランを提案しました。発表の内容や構成を工夫し、プレゼン資料の作成や発表の練習をするなど、学校祭と市郡秋季大会の忙しい時期に本当によく頑張ってまとめていました。発表題は「ふるさと男鹿を元気で楽しいまちに！」で、男鹿市の自然や観光、産業についてもたくさんPRしました。提言については、男鹿市の少子高齢化と人口減少の推移を分析し、それを課題に挙げ、アマノさんでの食育応援週間での取組を中心に紹介しました。そして、課題改善のために、①男鹿の特産物を使った四季折々の弁当販売、②特産物を使ったB級グルメの開発、③アマノ男鹿店のイートインの活性化、この３つのテーマを掲げました。具体的には、①本校２年生が考えたメニューでのコラボ弁当を食育応援週間（毎月第４週）で販売、②郷土のメロンを生かしたシュークリームやあんこのきりたんぽ販売等の斬新なアイディアの提案、③平日もお年寄りが集まるイートインコーナーの工夫等、提案は多岐に渡り、どれも創造性と実用性の高いものでした。残念ながら、県大会には進めませんでしたが、プレゼンの発表内容は大好評でした。発表してくれた皆さん、本当にご苦労様でした。

活性化選手権や地域での職場体験学習のように、男鹿市の将来をオリジナルな生徒目線で考えたり、地域の職業について体験しながら考えたり、「地域と学校の共生」が、ますます大切になってきます。地域の子どもを、みんなで伸ばしていくことができたら幸いです。

全国学力・学習状況調査の結果から



４月に全国の中３を対象に、国語と数学で全国学力・学習状況調査が行われ、先日、結果について公表されました。本校３年生は、このグラフで示されているように、正答率は全国平均や県平均と比較しても、学力は同程度またはそれ以上と言えます。特に国語では県平均の＋5.0ポイントと高い結果でした。数学にしても、この学年の昨年の県学習状況調査と伸びを比較すると、＋2.2ポイントと確実に向上が見られます。また、質問紙では、「タブレット等の活用」「自分の考えが伝わるように発表を工夫」「話し合う活動がある」という項目等で、県平均より高い肯定的な回答が見られました。逆に、「ICTを授業以外での勉強に活用」「平日や土日の家庭での勉強時間」等に課題があります。今後この結果を基に、全教職員で成果や課題を分析し、授業改善、学力向上に努めてまいります。